

住みよいまちづくり情報誌

Vol.53

令和4年3月26日

発行 住みよいまちづくり新莊会
(水戸市新莊市民センター内)
(〒310-0036) 水戸市新莊2-11-2
Tel.029-221-7851

責任者 住みよいまちづくり新莊会
会長 川又 一郎

編集 新莊会広報部

印刷 常磐総合印刷株式会社
題字・坂 俊治

新莊学区の常住人口 世帯数 3,076

男 2,825 女 2,978 合計 5,803 (令和4年2月1日現在)

年齢別人口

0 ~ 14 才 535 (9.2%)

15 ~ 64 才 3,273 (56.4%)

【参考値】

65 才以上 1,995 (34.4%)

(令和4年2月1日現在)



新莊地区歩く会、笠原水源歴史広場にて

新莊地区歩く会
秋の逆川緑地を歩く

光岡公が敷設した笠原水道を訪ねて

11月21日(日)、新莊地区歩く会が快晴のもと、スボレク部計画により、笠原水道を訪ね逆川緑地方面において実施されました。

参加者は救護2人給食支援2人を含む64人で、9時前に出発し約7kmのコースを約2時間(休憩含む)掛け歩きました。歩数は約1万歩でした。

コースは、新莊市民センター出発後、歴史館前、偕楽園東口前を通って千波湖黄門広場で休憩。湖畔南側中央から旧消防学校跡地駐車場横の湖南坂を上り、文化センター裏の住宅街を通り抜けて逆川緑地公園に到着し、ふれあい橋前広場で休憩。その後は、笠原水道が敷かれていたと思われる逆川東側の約1kmの自然道を歩き、笠原水源歴史広場に到着しました。この自然道は、自然が豊富で所々木道が敷かれ、途中笠原水道の岩樋の遺跡なども展示され、市内で身近に接することのできる歴史自然公園です。

笠原水源到着後は、歴史広場で記念撮影と浴徳泉の碑など歴史観察の後、昼食の弁当を受領し自由解散となりました。

笠原水道の歴史は2頁参照。

令和三年度水戸市ほう賞受賞者

3月2日(水)、ザ・ヒロサワ・シティ会館小ホールにおいて水戸市民の集いがあり、新莊地区では、次の方々が永年勤続町内会長・自治会長ほう賞を受賞されました。

◎二十五年勤続

湊 弘一郎 様(馬口労町三丁目)

◎二十年勤続

富田 實 様(馬口労町五丁目)

伊藤 和雄 様(新莊二丁目12)

◎十五年勤続

鈴木 秀則 様(砂久保町四区)

橋本 久雄 様(砂久保町五区)

中村恵美子 様(木ノ折町)

◎十年勤続

加藤 紀彦 様(サーパス末広町)

安 義孝 様(八幡町松一)

加藤 浩明 様(新莊二丁目13)

令和三年度中央共同募金運動受賞

11月19日(金)、社会福祉法人中央共同募金会は共同募金(赤い羽根募金)運動に尽力し社会福祉の増進に貢献した功労者を表彰しました。

新莊女性の会は、多年にわたる赤い羽根募金の功績が顕著であるとして同賞を受賞されました。



新莊女性の会会長 袴塚 禮子 様

新莊会ホームページ開設

新莊会はホームページを開設しました。内容は3頁に掲載。

エコ・リサイクル研修会

水戸市新清掃工場

「エコみっこ」

を研修して

1月13日(木)、23人が参加し、昨年4月水戸市に建設された清掃工場「エコみっこ」(下入野町所在)のほか、ひたちなか市の遺跡を研修しました。

午前中のエコみっこの研修では、家庭から収集車で回収した資源物やごみ(以下「資源物等」)がどのように処理されているかを見学しました。本研修では、生活から出た資源物等すべてが最終的にリサイクル(再利用)されている状況を理解することができ、大変有意義でした。

「エコみっこ」には、燃えるごみを一日330トン焼却処理する焼却施設と、燃えないごみと粗大ごみ、びん・缶、プラスチック容器、ペットボトル、白色トレーの資源物を一日55トン処理するリサイクルセンターがあります。

エコみっこに到着した収集車は、計量後、資源物等の種類に応じ標識に従いそれぞれの施設に入ります。また、リサイクルセンターの中には一般市民が搬入できる荷下ろし場所もあり、これらは、標識に従って入出場します。

○リサイクルセンターでの処理

リサイクルセンターでは、収集車はプラットホームに入ると、種類の受入貯留ヤードに搬入し、一旦それぞれ貯められた後、種類に応じ、手作業又は自動機械化によ

り破碎、選別、保管の処理を行います。その結果、鉄、アルミ、色別瓶などに選別、回収され、さらにスチール、アルミ缶はプレス機で圧縮整形し搬出。ペットボトル、白色トレイ、プラスチック製容器包装は同様の過程により圧縮整形し搬出。有害ごみは、一定量を貯めた後搬出。このようにすべて種類別に細かく分別され、資源として再生工場に運ばれ再利用されます。



プラスチック製容器包装クレーン駆動の様子

○焼却施設での処理

一方、燃えるごみも再利用されます。

燃えるごみは巨大なごみピットに貯められ燃えやすい状態にされ、燃焼効率のよい焼却炉に投入され焼却します。高温で燃焼し発生した排ガスは、ボイラーから熱を回収して蒸気から電気をつくりに利用。この時の排ガスはろ過されきれいなガスの状態で外部に放出。最後に残った灰は、主灰ピットに貯留後、主灰資源化施設に運ばれ、セメントや人工砂として再利用されます。

『笠原水道の歴史』

笠原水道は、寛文2年(1662年)、用水の便が悪かった水戸の町の飲料水確保のため、徳川光圀公が町奉行の望月恒隆に設置を命じてつくりました。水道設置の調査を行った

これらはすべて中央制御室で機械の運転のコントロールや監視を行っておりです。

午後は、大洗の潮騒の湯で昼食後、ひたちなか市埋蔵文化財調査センターを見学しました。同センターでは、市内の地中に埋もれている古代の生活跡や土器等の遺物の調査・研究を行っています。ここでは、1400年前の前方後円

墳の虎塚古墳(国指定)とその石室(彩色壁画)のレプリカのほか、1200年以上前に壁を掘り込んで築かれた横穴墓群の十五郎穴(県指定)の貴重な史跡を見学し、帰路につきました。

なお、エコみっこと工場見学は、随時、無料で申し込みを受け付けております。水戸環境テクノロジ(TEL029-330-4431)

数学者の平賀保秀により笠原が水源として選ばれ、永田勘衛門により工事が行われました。

笠原水道の敷設経路は、笠原水源地から逆川に沿って千波湖に出て、岸に沿って吉田神社の崖下を通り、備前堀を越えて、本町に出て、細谷(城東)まで届いており、那珂川の放流口まで11km、主水路は7kmあります。(地図参照)

笠原水道敷設経路図



布設物は、笠原水源地から逆川に沿って千波湖に出る藤柄町まで岩樋を用いた暗渠を作り、備前堀を銅樋で渡して市街に入り、本線は木の樋、支線は木または竹樋で水を引きました。岩樋は千波湖の対岸の備前町や神崎寺の崖下から切り出して船で運びました。岩を切り出した跡が洞穴のようになっています。岩樋のつなぎ目には粘土を使い、水路は地中に通すなど、当時、他藩では見られなかつ

た技術を用いております。また、町内には水タメを作り、旅人も自由に飲めるようにしました。

この水道は完成までに1年半、工費554両、人夫2万5千人余りを要しました。この水道は日本では18番目に古い水道となっています。

完成後は、水道を使う町人たちがお金を出し合って修理したり、当番を決めて補修をしました。

1802年(享和2年)には大規模な修理が行われ、1826年(文政9年)には「浴徳泉の碑」が笠原水道を記念して設置されました。明治時代には竜頭共用栓が水戸の町角に数十基設置され、多くの人に利用されました。

2016年時点、水源地である笠原水源地には竜頭共用栓が復元されて設置されており、湧水に塩素が注入された水道水を吐水しています。また、ここには敷設当時の岩樋の復元模型が設置され、水道が通っていたあたりは現在逆川緑地公園になっており、同公園内に発掘調査で出土した岩樋が展示されております。



横穴墓群の十五郎穴

新莊地区人権啓発講演会

演題「笑いが一番」

講師：柳貴家正楽師匠
（やなぎやしょうく）

1月25日(火)午後、一時間半にわたり、新莊市民センターホールにおいて、国内外で人権が問題になっている昨今、人権啓発の講演会が40人の参加者を得て開催されました。

講師は、元山町在住の水戸大神楽宗家十八代家元柳貴家正楽師匠で、水戸市の人権啓発講師もされています。講演では「笑いが一番」をタイトルに、師匠の歩んできた人生と水戸大神楽の歴史の紹介、最後に曲芸の実演をしていただきました。

表題の「笑いが一番」は師匠が20年近く前出演したNHKの人気番組であり、この時実演した水戸大神楽が人権教育に最適であるとして県教育委員会から指定されたことによりです。

師匠は幼少時から水戸大神楽の厳しい修業を行い、一時水商高



柳貴家正楽師匠の講話と演技実演



人権啓発講演会参加者の皆さんと共に

時代に進路に迷う時もありましたが恩師の強い勧めもあって乗り越え、水戸大神楽の道に進出し芸能一筋に歩んできました。第18代正楽継承襲名後は、国内外の数多くの水戸大神楽の公演、出演等を精力的に行い、この間、文化庁芸術祭賞等数多くの輝かしい受賞をしました。

水戸大神楽の歴史では、伝来の古文書や版画、獅子頭、そして先代から継承者までの活動状況を紹介していただきました。

曲芸では、数多くの演技実演をしていただき終始、笑いと歓声と拍手に包まれました。

最後は、平和を祈念し手締めで終了しました。

子育て広場クリスマス会が開催

12月24日午前、新莊市民センターにおいて子育て広場のクリスマス会が、親子9組20人が参加し実施されました。

子育て広場は毎月第4金曜午前、新莊市民センターホールで、未就学児と保護者を対象に、市子ども課の依頼により新莊女性の会が見守りボランティアとなって活動している支援事業です。

今回のクリスマス会では、前日から飾り付けの準備、おもちゃの消毒等を入念に行い参加者を迎えました。当日はピアノ演奏によるクリスマスソング合唱、紙芝居朗読を行い、最後は所長演じるサン

住みよいまちづくり新莊会ホームページ(新莊会HP)を開設しました!!

新莊会はこの度、町内会及び関係団体へのタイムリーな情報提供に努めるため、ホームページ(新莊会HP)を開設しました。

このホームページでは、日頃回覧等に接することが難しい各世代の方々が、普及の進んでいるスマートフォンやパソコンでいつでもどこでも迅速かつ容易に回覧等の内容を確認できるようにしました。是非、ご活用下さい。

1. 検索先(新莊会HP)
名称:「水戸市新莊地区地区会」

住みよいまちづくり(新莊会)
URL:「<http://sinsokai.la.coocan.jp/>」



新莊会HP
QRコード

※検索・登録方法

○パソコンの場合
パソコンでの検索は、「URL」及び名称のいずれか又は組み合わせでグーグル検索してください。

なお、このHPは「水戸市住みよいまちづくり推進協議会」と広場に掲載の地区会一覧の「住みよいまちづくり新莊会」リンク先から検索することができます。

○スマートフォンの場合
スマートフォンでは、前記のほか次のQRコードで容易に検索できます。



見守りボランティアの皆さん

タクロースによるプレゼント配布で子供は大興奮、保護者の拍手で沸きました。
今回のクリスマス会は試行錯誤による初めての試みでしたが、大変好評で皆さんに喜んで頂くことができました。(新莊女性の会)



子育て広場クリスマス会の様子

2. 掲載内容

○トップページ(お知らせ等一覧)
トップページには今年度の各お知らせ・その他行事予定等の一覧を表示し、各ページには過去の年度を含むお知らせ・その他の情報を表示しました。

全ページを通じて新しい情報には、「新着(赤字)」の印を表示しました。

○お知らせ(新莊会)

○新莊会について

○会長挨拶

○お知らせ(その他の行事)(新莊地区又は関係団体による)

開催)

○業務案内及びお知らせ(新莊市民センター)

○今年度の行事予定(新莊会)

○各種計画等、広報誌「ときめき新莊」バックナンバー

○フォトアルバム(開催した行事の写真集)

新莊散策

旧町名シリーズ(1)

谷中地区

旧町名の谷中地区(馬口労町と谷中)について紹介します。

現在の末広町は昭和42年まで、馬口労町(末広町1・2丁目)及び谷中(末広町3丁目)からなる谷中地区と呼ばれました。(地図参照)



谷中地区

1. 商店街と商人街

この谷中地区は戦前まで商店のある町、商人の住む町として繁栄しました。

(1) 馬口労町

馬口労町は、幕政時代、馬市が立ち馬の仲買を生業とする馬喰が多く居住していたためその名が付けられ、当初は馬喰町と書かれました。元は常葉村の地でした。



馬口労町二十三夜尊祭礼

(2) 谷中

谷中は、地形が谷間であったために付けられた常葉村の小さな名です。享保(1700年代前期)の頃に、人家が50戸を越え、商家も見られるようになり、城下町の馬口労町と町続きになりました。その後、水戸市には明治22年編入されました。

が、城の西の出入口にあることから町方に編入されました。江戸時代初期、この町は谷中、袴塚を経て栃木県茂木に通じる街道として開け、商人街となりました。特に物資の集積場として、問屋、運送業者や商店で賑わいました。

明治維新前には、多くの大商店がこの町に立ち並び城下一の問屋町として栄え、明治初期には23軒の大商店がありました。特に上町の町年寄でこの馬口労町に住んでいた呉服商大高織右衛門は米穀の需給などの経済面で活躍した豪商でした。

明治42年現在の茨城大学周辺に歩兵第2連隊と工兵14大隊が移駐してから、人の出入りに加えて沢山の物資の需要が発生し、巨大な消費地となり、多くの業種の商店が軒を連ねました。

明治末に軍隊の兵営舎が出来てから、谷中は急速に商店街を形成しました。兵営に近い谷中は兵員の娯楽を兼ね、料理店、芸妓屋、待合が誕生しました。この誕生により谷中は水戸の浅草と言われるほど栄えました。

2. 交通機関

谷中地区ではその繁栄とともに周辺の道路と鉄道が発展しました。

道路では、現在の118号線と123号線や50号線以前にできた幹線道路では、谷中から那珂川に下る道で「谷中新道」(旧118号線)と呼ばれ、坂の途中には馬の蹄鉄屋がありました。また、地元有志の中心となって水高道路(水高と上水戸間)や八間道路(50号線の前身)などもできました。

鉄道では、谷中地区の近くに上水戸駅(現在コスモス店があり、赤塚から御前山へ至る茨城鉄道、磯浜への水浜電車の発着場として賑わいました。特に水浜電車は谷中、袴塚まで開通し、軍隊へのアクセス、通勤通学、二十三夜尊参拝、大洗海水浴等の客足として活躍し、緑日などは乗り切れない乗客が電車の外側にあふれるほどでした。

3. 現在

現在、馬口労町は、多くの問屋が商店街を形成し今日に至っていますが、昭和20年の戦災で焼けなかったのが、ほかの商店街と比べると古い家屋が残っております。明治末頃に大商家が磯浜から勧請した神力稲荷神社なども残っております。また、谷中は道路拡張と共に新しい商店街に生まれ変わりました。

令和3年度

地域安全活動受賞

10月7日(木)、県警察本部長及び同県防犯協会は令和3年度地域安全活動功労者を表彰しました。

青色パトロール栄町連合自警団は、地域安全ボランティア団体として多年に渡り安全で安心なまちづくりに貢献した功績が顕著であるとして表彰されました。



青色パトロール栄町連合自警団
田口 允彦、松枝 誠一
大戸 富雄、川又 健志

水戸市女性防火クラブ
連合創立30周年

新莊地区女性防火クラブ

水戸市女性防火クラブは現在31地区で結成され、2月6日(日)、連合創立30周年を迎えました。その中で新莊地区女性防火クラブは地域の方々と共に安全安心を願い見守ってまいりました。幸いにも新莊地区はこれまで災害も少なく過ごすことができましたが、これも日頃の近隣の親睦があったことと思います。

本年は1月9日(日)、水戸市恒例の千波公園での出初式に参加できました。これからは、皆様と共に歩んで行きますので宜しくお願いします。(新莊地区女性防火クラブ)

令和3年度
新莊地区敬老会

敬老会記念品配布の様子

令和3年度の新莊地区敬老会は、県の新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言を受けて、9月末まで市有施設等の利用が制限され、式典は中止となりました。

このため、昨年同様に記念品配布のみを実施することとし、期日は10月8・9日の2日間に延期し、新莊市民センターロビーにて新莊女性の会、社会福祉協議会新莊支部の支援により行われました。

対象者への記念品配布は、敬老会招待者1144人中、出席者又は代理出席者計993人中、9割近くの高い出席率でした。

編集部委員

川又健志・塩井雅子・岩淵延子